

予報期間 8月26日から9月1日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 期間を通して太平洋高気圧が日本の南に張り出す。
- 28日は、低気圧が発達しながら千島近海を東進し、低気圧からのびる前線が日本の東を南下する。高気圧が沿海州から北日本に移動する。
- 29日は、高気圧が日本の東に移動し、気圧の谷が沿海州に進む。
- 30日は、低気圧がサハリン付近を東進し、気圧の谷が北日本を通過する。
- 31日から9月1日は、高気圧がオホーツク海から千島近海に移動し、気圧の谷が日本海に進む。

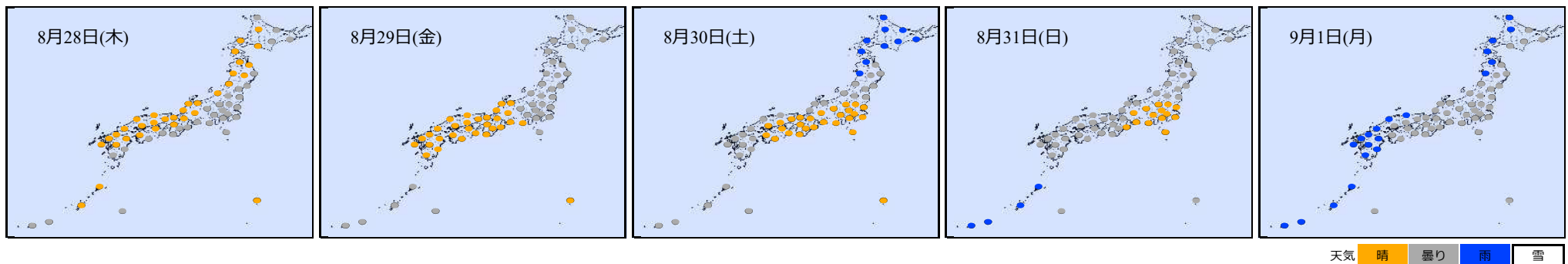
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 東日本から西日本にかけては気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

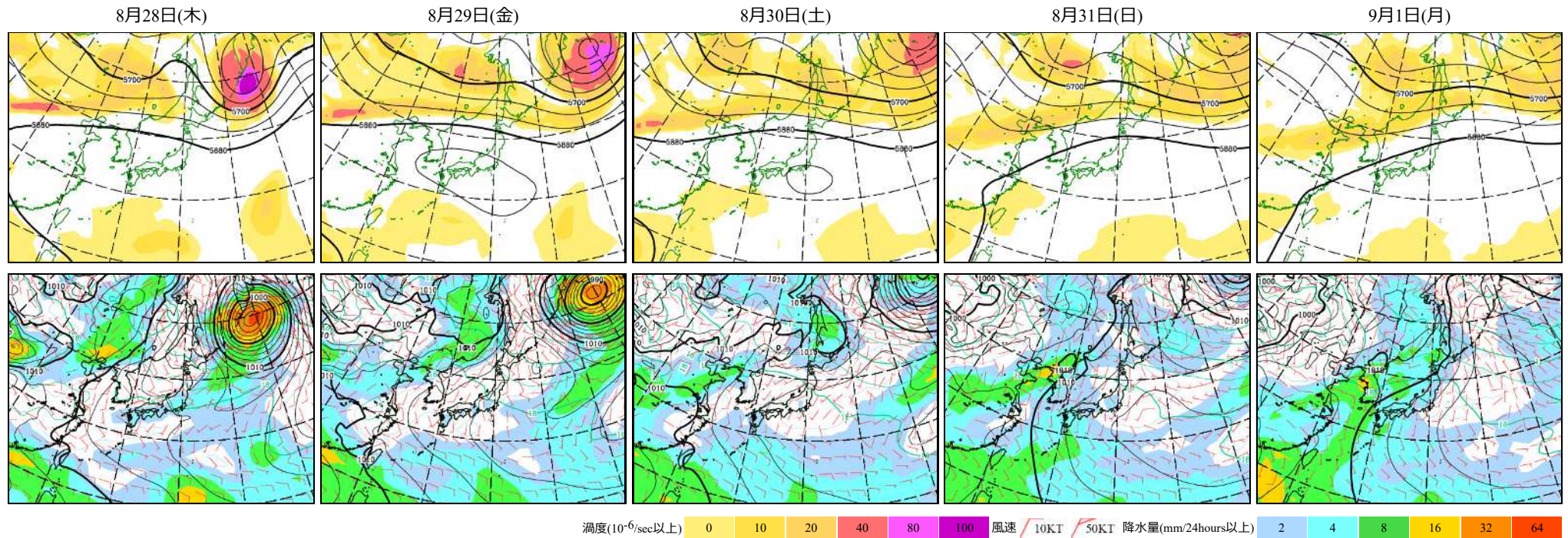
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

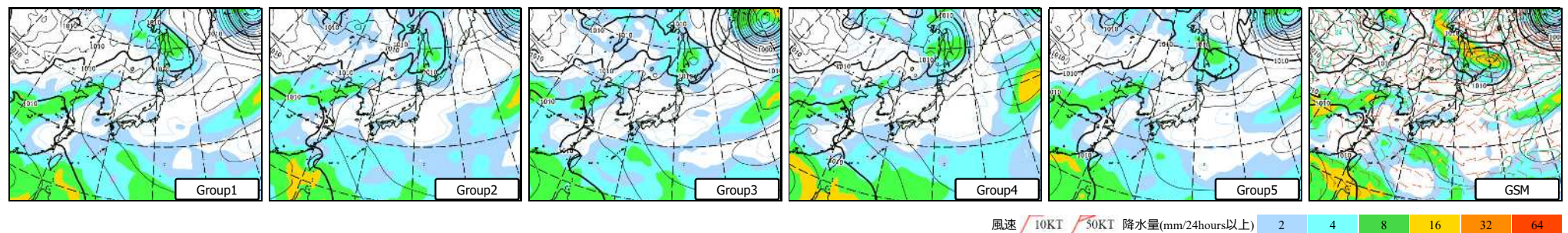


- 北日本は、28日は晴れる所もあるが、29日以降は雲が広がりやすく、30日と9月1日は雨の降る所がある。
- 東日本は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 西日本は、曇りまたは晴れの日が多いが、9月1日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、31日から9月1日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月30日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、初期値変わりは小さい。30日頃に北日本を通過する気圧の谷がやや浅くなった。
- 各モデル初期値変わりが見られるが、モデル間のバラつきは昨日資料より小さくなった。29日から30日頃にサハリン付近を進むトラフや北日本を通過する気圧の谷の位相については、モデル間でやや差が見られる。
- スプレッドは比較的小さく、特定高度線のバラつきも小さいが、29日から30日にかけてサハリン付近を通過する低気圧の予想については、ENSメンバー間でもバラつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。